

# ヘリテージツリーズ(歴史遺産樹木)サイン設置リスト

     は国内初導入種

	和名	学名	科名	来歴、由来
1	ハナミズキ	<i>Cornus florida</i>	ミズキ科	大正時代(1912)東京市長尾崎行雄がワシントンへ桜を贈った返礼に渡来。この個体は二回目に返礼されたものの一部と伝わる。アメリカヤマボウシともいう。
2	<span style="background-color: yellow;">アメリカハリグワ</span>	<i>Maclura pomifera</i>	クワ科	北米中南部の原産で、アメリカ南部の渓谷などに分布する。昭和元年(1926)我が国初導入種。ソフトボールほどの大きな実が特徴。
3	<span style="background-color: yellow;">ニイタカカツカ</span>	<i>Stranvaesia davidiana</i>	バラ科	昭和元年(1926)我が国初導入種。果実は赤く熟し、中国ではこれを観賞するために栽培される。中国名では紅果樹(玉山假沙梨、柳葉紅果樹)
4	くすのき並木	<i>Cinnamomum camphora</i>	クスノキ科	当園創設時に植栽された約200mの並木道。川端康成の小説『古都』に「京都植物園のくすのき並木」と何度も登場し、映画化時にはロケ地にもなった。南北総数55本。
5	<span style="background-color: yellow;">ロウヤガキ</span>	<i>Diospyros rhombifolia</i>	カキノキ科	我が国初導入種。第二代菊池園長が中国から持ち帰ったとされる。実が小さいため盆栽としてよく栽培される。実の形から別名ではソクバネガキ。
6	<span style="background-color: yellow;">シナマンサク</span>	<i>Hamamelis mollis</i>	マンサク科	昭和11年(1936)中国廬山植物園から我が国初として種子交換で導入。昭和16年2月8日ここに植栽。日本のマンサクよりも花が大きく早く咲く。
7	ゴヨウマツ	<i>Pinus parviflora</i>	マツ科	開園当初に植栽されたと考えられる。国内最大級の個体。北海道南部以西から四国、九州のやや乾燥地に自生する。葉は五葉。
8	ダルベルギア フーペアーナ	<i>Dalbergia hupeana</i>	マメ科	中国原産。昭和10年(1935)中国南京植物園から種子交換で導入。昭和13年3月に植栽。葉の展開が5月中旬ごろと最も遅い落葉樹。中国名は黄檀。
9	アキニレ	<i>Ulmus parvifolia</i>	ニレ科	賀茂川畔の原植生の名残とされ、植物園開園以前からこの地にある個体。樹齢約300年と推定。ハルニレは春に開花、結実するが、本種は秋に開花・結実する。
10	シマモミ(ユサン)	<i>Keteleeria davidiana var. formosana</i>	マツ科	昭和10年(1935)12月、台北林業試験場から小苗で導入し、昭和17年12月に植栽の記録あり。10本導入のうち2本が現存する。ユサン(油杉)、タイワンアブラスギ(台湾油杉)の別名もある。
11	トチュウ	<i>Eucommia ulmoides</i>	トチュウ科	中国西部原産。昭和10年(1935)種子交換で導入。国内最古クラスの個体。樹皮は生薬「杜仲」として杜仲茶の原料になる。
12	トウサイカチ	<i>Gleditsia sinensis</i>	マメ科	昭和12年(1937)頃種子交換にて導入。樹皮や根皮、葉、果実、種子、棘は去痰用生薬「ソウキョウ(皂莢)」や「ソウカクシ(皂角子、皂角刺)」の原料とされる。
13	フウ	<i>Liquidambar formosana</i>	フウ科	中国中南部及び台湾が原産だが、当園創設時にはあったと伝わる国内最大級の個体。中国では樹脂が「楓香脂」として薬用に利用される。
14	トキワマンサク	<i>Loropetalum chinense</i>	マンサク科	中国南部と静岡、三重伊勢神宮、熊本に隔離分布する1属1種の常緑広葉樹。京都大学理学部植物園から導入。樹齢100年以上。
15	ヌマスギ	<i>Taxodium distichum</i>	ヒノキ科	昭和10年(1935)9月京都大学高槻農場から導入、昭和17年(1942)2月21日当地に植栽。北米東南部～メキシコ原産。気根が特徴。
16	オオシダレザクラ	<i>Cerasus itosakura f. itosakura</i>	バラ科	第十五代佐野藤右衛門により先代の祇園枝垂れの種子から育てられたものを、昭和39年(1964)この地に植栽した。園内で最大のシダレザクラ。
17	ハナノキ	<i>Acer pycnanthum</i>	ムクロジ科	昭和4年(1929)三井同族会から寄贈され植栽されたと考えられ、樹高約30メートルで国内最大級の個体。長野、愛知、岐阜に隔離分布する。紅葉が美しい。
18	イヌカラマツ	<i>Pseudolarix amabilis</i>	マツ科	昭和47年(1972)京都園芸倶楽部が創立50周年を記念して植樹した。結実する個体は全国的に珍しい。中国東部及び南部が原産で落葉性の針葉樹。
19	セコイア(セコイアメスギ)	<i>Sequoia sempervirens</i>	ヒノキ科	昭和37年(1962)この場所に植栽。約40メートルと園内の樹高を誇る園のランドマークであったが、令和5年(2023)の台風により上部1/3が折れ失われた。
20	メタセコイア	<i>Metasequoia glyptostroboides</i>	ヒノキ科	昭和28年(1953)京都大学演習林から苗木を導入。1945年に中国で生きた化石として発見され、その後アメリカで増殖されたものが昭和25年(1950)苗木として日本に導入されたその一部。
21	ヒマラヤスギ	<i>Cedrus deodara</i>	マツ科	大正6年(1917)の導入。梅林東の4本の個体から、種子を全国に配布した。日本へは明治12年(1879)横浜港に初めて渡来したといわれている。
22	オオカナメモチ	<i>Photinia serratifolia</i>	バラ科	中国の南京総理陵植物園から昭和10年(1935)種子導入したもの。昭和12年(1937)6月18日貞明皇太后の行幸を記念してこの地に植樹された。
23	カツラ	<i>Cercidiphyllum japonicum</i>	カツラ科	大正9年(1920)植栽の古木。葉から香りが出ることを意味する「香出(かづ)る」が名の由来とされ、落葉期に甘いカラメルに似たマルトールという成分を発揮する。
24	カゴノキ	<i>Litsea coreana</i>	クスノキ科	山城盆地の原植生の名残で天然木。昭和9年(1934)室戸台風の被害で倒木したが当時の菊池園長が最重要個体として真っ先に復旧を命じた逸話が残る。
25	コサルスベリ	<i>Lagerstoemia x amabilis</i>	ミソハギ科	昭和30年代後半に、大阪市立大学理学部附属植物園から導入した個体。サルスベリと中国中部、台湾及び奄美諸島などに自生するシマサルスベリの交雑種
26	マルバチシャノキ	<i>Ehretia dicksonii</i>	ムラサキ科	昭和12年(1937)パリ自然科学博物館付属植物園から種子導入したもの。昭和15年(1940)12月17日この地に植栽した。この個体は2世と考えられる。
27	アメリカキササゲ	<i>Catalpa bignonioides</i>	ノウゼンカズラ科	大正5年(1916)頃植栽。現在のけやき並木は当初アメリカキササゲであった。その後シリブカガシを経てケヤキに至る。北アメリカ南東部原産で明治期に新宿御苑に導入されたものが最初。
28	<span style="background-color: yellow;">トウキササゲ</span>	<i>Catalpa bungei</i>	ノウゼンカズラ科	中国北部原産。昭和初年、当園に渡来したとされこの場所には昭和13年(1938)3月の植栽記録がある。果実は「梓実(しじつ)」と呼ばれ生薬になる。
29	カイヅカイブキ	<i>Juniperus chinensis L. 'Kaizuka'</i>	ヒノキ科	大正13年(1924)の開園当時、樹齢約30年の個体を植栽した。現在約40本が残る。職員伝統の剪定技法による特殊樹形を継承している。
30	バラモミ(ハリモミ)	<i>Picea polita</i>	マツ科	本州、四国、九州に分布する。戦後に武田薬品工業京都薬用植物園から導入したと伝わる。トウヒ属の球果の中で最も大きい。
31	<span style="background-color: yellow;">シダレエンジュ</span>	<i>Styphnolobium japonica var. pendula</i>	マメ科	昭和9年(1934)当園の第二代菊池園長が中国から持ち帰りエンジュに高接ぎして増殖。国内初導入であり当園を象徴する貴重個体群。当時の原木も森のカフェ裏に残る。
32	タイサンボク	<i>Magnolia grandiflora</i>	モクレン科	北米原産のモクレンの仲間。日本に渡来したのは明治時代初期で、新宿御苑に植えられたのが始まりとされる。この個体は戦前から残る古木。
33	<span style="background-color: yellow;">カンレンボク</span>	<i>Camptotheca acuminata</i>	ヌマミズキ科	昭和12年(1937)中国南京総理陵植物園から種子を導入した。我が国初導入の個体。中国では子孫繁栄につながる縁起の良い木＝「喜樹」とされる。生薬名は喜樹果。
34	ランシンボク	<i>Pistacia chinensis</i>	ウルシ科	昭和40年(1965)日本最古の武家文庫とされる神奈川県にある金沢文庫から苗木として導入したもの。雌雄異株で3本のうち1株は雌木。学問の聖木として各地の孔子廟にも植えられている。
35	ニワウルシ	<i>Ailanthus altissima</i>	ニガキ科	昭和13年(1938)ドイツのドレスデン植物園から種子で導入したもの。中国原産で明治初期に渡来。種子は扁平形で翼があり、風で四方へ飛び散ることで繁殖する。
36	けやき並木	<i>Zelkova serrata</i>	ニレ科	昭和14年(1939)に植栽された植物園のシンボルロード。三井同族会からの寄贈による導入とされ下鴨三井別邸から移植したもの。約250mの延長に約65本の並木が植わる。
37	フジキ	<i>Platysprion platycarpum</i>	マメ科	マメ科の落葉樹で別名をヤマエンジュという。この個体は山城原野の原植生の名残とされ貴重。国内最大級の樹形。花期は6～7月ころ。京都府準絶滅危惧種。
38	ノニレ	<i>Ulmus pumila</i>	ニレ科	シベリア東部から中国、モンゴル、朝鮮にかけて分布する。近畿ではここだけ。ハルニレによく似ているが、樹皮が荒々しく葉が小さい。別名でマンシュウニレとも言う。